R3年11月6日開催

オンラインによる野生動物観察会「おうちで調布市内の野生動物を観察しよう！」より

解説員に聞いてみた！

質問コーナー

注）質問の内容は原文のまま引用しています。

質問１：アライグマとかタヌキは夜行性とのことですが、昼間は何をしていますか？

回答１：昼間はねぐらで寝ていることが多いです。本来は樹林地などにある巣穴、樹洞などをねぐらとして利用しますが、都市部では道路の側溝や住宅地の軒下などを利用することもあります。基本的に夜行性ですが、子育て中で多くの餌を必要とする場合、ここは安全な場所だぞと学んだ場合、病気等で夜間に動けない場合など、日中に活動することもあります。

日中に活動するアライグマ

質問2：猫や猿は見られますか。猿は最近騒ぎになっていましたが。

回答2：いわゆる野良ネコ・地域ネコはあちこちでみられます。人が与えたネコ用の餌を他の野生動物が食べることもあり、野生動物が人の近くでみられるようになった要因のひとつです。最近話題になっている、都内でも確認されたニホンザルですが、群れをはぐれたり、群れを離れて独り立ちしたりした若いオスのサルで「離れザル」といいます。9月に調布市内に出没した離れザルについては、情報館の解説員は見たことがありませんが、情報館付近に在住・通勤されている方の中には、サルを見たよという方もいらっしゃいました。

質問3：今回、鳥は対象外ですか。カルガモの親子の移動を見ることもできますか。

回答3：多摩川に仕掛けた無人撮影カメラでは、ダイサギなどの鳥類も撮影することができましたが、今回のオンラインイベントでは対象を哺乳類のみに絞りました。

無人撮影カメラで撮影したダイサギ

市内全域でみるとカルガモ親子の移動は様々な場所で確認されています。以前、市民の方から「マンションの敷地内にカルガモ親子が迷い込んでしまった。どうしたらよいか。」と問い合わせを受けたことがあります。その際には、親鳥が水辺にたどり着けるような誘導の仕方を電話越しにレクチャーしました。

カルガモ親子

写真提供：水元伸二氏

質問4：苺を育てていたら夜の間にたべられました。何の生き物でしょう？

回答4：イチゴのような甘い実を食べる生き物は、アナグマ、アライグマ、タヌキ、ハクビシンといった哺乳類のほか、カラス、ヒヨドリをはじめとする鳥類など複数います。今後、同じような被害が起きた場合は、是非、痕跡を写真に撮って情報館に送ってください。どの生き物が食べたのか、もしかするとわかるかもしれません。

質問5：欧米の街中によくリスを見かけますが日本では難しいのでしょうか。

回答5：国内に生息する在来種のリスは、ニホンリス、エゾリス（キタリスの亜種）、エゾシマリス（シマリスの亜種）の3種です。このうち、本州でみられるのはニホンリスです。

ニホンリスは住宅地に隣接する樹林地などで姿を見せることもあるようですが、多くは森林で生息しています。なお、ニホンリスが生息する場所は都内では限られており、現在、調布市内ではニホンリスを確認していません。

エゾリス、エゾシマリスは北海道に生息していますが、餌付けが行われている地域では、住宅地にやってくることも多々あるようです。（なお、ダニ、ノミなどが病気を媒介する恐れがあるため、野生動物への餌付けは原則禁止されています。）

また、国内に生息する外来種に、クラハラリス（タイワンリス）がいます。クラハラリスは「**特定外来生物**」に指定されており、神奈川県の鎌倉市などでは、クラハラリスが樹林地だけでなく住宅地周辺でも確認され、果樹を食べたり樹皮をはがしたり、電線やコードを噛んだりなど、様々な被害が生じています。

ちなみに、在来種のニホンリス、エゾリス（キタリスの亜種）、エゾシマリス（シマリスの亜種）、特定外来生物のクラハラリス（タイワンリス）、カルフォルニアでよくみられるトウブハイイロリスなど、リスのなかまの一部は昼行性のため、夜行性の哺乳類と比べて人目につきやすいといった特徴があります。

住宅地で確認されたエゾリス

質問6：オオカマキリを飼っているのですが、冬を越すためにどうすればよいですか？餌がなくなって困っています。

回答6：カマキリのなかまの餌はコオロギやバッタなどの昆虫類ですが、冬場に餌をとるのが難しい場合はヨーグルトを与えるという方法もあります。なお、カマキリのなかまは10～11月頃に卵を産み、卵のまま冬を越しますが、成虫は卵を産むと死んでしまいます。カマキリの寿命は、卵の状態を含めておおよそ1年くらいです。自然の状態では成虫のまま越冬できませんが、あたたかい場所で飼育すると3月頃まで生きたという話もあります。

質問7：オオタカは生息していますか？

回答7：市内でも時折みかけます。オオタカは環境省のレッドリスト2020や東京都レッドリスト2020年版にも選定されているいわゆる「希少種」であり、ここに行けば見られるよという、具体的な場所はお教えできません。

オオタカ

写真提供：水元伸二氏

質問8：野生の犬はいますか？

回答8：飼い主のもとから離れてしまった迷子の犬はいるかもしれませんが、いわゆる「野犬（野生化して群れで生活している犬）」はいません。

質問9：多摩川でキジを見かけました。キジは空を飛べるんでしょうか？

回答9：キジは空を飛ぶことができますが、体が重く、長い距離や長い時間を飛んでいることはできません。10数～30m程度の短い距離であれば、力強く羽ばたきながら飛ぶことができます。

キジ（オス）

キジのつがい（左：メス・右：オス）

写真提供：水元伸二氏

質問10：小島町と下石原でタヌキを見かけて大喜びでした。子たぬきは見られたことがありますか？

回答10：あります。また、水際など足跡が残りやすいところでは、親子と思われる大小の足跡が残っていることもあります。

質問11：疥癬にかかったタヌキは、昼間に出てくることが多いですか？

回答11：はい。疥癬にかかり体が弱ると、夜間は寒すぎて動き回ることができず、日光で体をあたためるため、昼間に活動するのだと思います。そのため、人目につきやすいのです。

質問12：野生のフクロウは見ることができますか？

回答12：種・フクロウは市内での記録がほとんどなく、移動中の個体が一時的に立ち寄る程度だと思います。この他、フクロウのなかまのアオバズクという夏鳥がやってくることがあります。アオバズクはカブトムシやセミなどの昆虫を食べますが、硬い頭の部分や翅の部分は残すことが多いです。バラバラになったカブトムシやセミの姿をみかけたら、近くにアオバズクがいるかもしれませんね。

アオバズクの食痕

質問13：カワセミは減りましたか？

回答13：あまり減ったという印象はありません。カワセミは土壁の高さ 1m程の位置に横穴を掘って巣を作ります。巣穴を掘るのに適した土壁や、巣として利用できるパイプ穴などがある場所では近くにいるかもしれません。多摩川では、令和元年台風19号の影響により護岸が削り取られたことにより土壁ができたため、以前よりもカワセミをみかける頻度が高くなった気がします。

カワセミ

質問14：調布に引っ越してからカメムシが多く、洗濯物などにくっついたりして困っています。

回答14：カメムシのなかまのうち、よく洗濯物に飛来するのはマルカメムシ、クサギカメムシ、キマダラカメムシの3種で、このうちキマダラカメムシは南方系の外来種です。これらのカメムシは成虫で越冬するため、越冬場所を探して集まる性質があり、自然の状態では、木の皮の裏など隠れやすい場所を利用します。しかし最近では、家の戸袋や天井裏などで越冬する個体も多く、特に秋になると飛来した個体が家の壁や窓、洗濯物に集まってきます。また、最近の洗剤には芳香剤が含まれたものも多く、これも引き寄せる要因の一つになっています。このような性質のため、なかなか集まることを防ぐのは難しく、洗濯物を取り込む際によくはたいて落とすことが大事です。

マルカメムシ

クサギカメムシ

キマダラカメムシ

質問15：ホタルを育てることはできますか？

回答15：ホタルは、比較的水質変化に対する耐性が強く、ゲンジボタルの餌となるカワニナやヘイケボタルの餌となるモノアラガイが確保でき、上陸して蛹になることができる土と苔がある環境があればは育てることはできます。調布市内でみられるホタルはゲンジボタルですが、野生の個体は極めて少なくなっており、採集して育てることは難しいと思います。市外から持ってきた個体は、調布市内のホタルと交雑して地域個体群が持つ遺伝子が攪乱される可能性があるため、飼育しても野外に放たないようにしてください。

ヘイケボタル

ゲンジボタル